

福井県嶺北におけるヌートリアの確認事例

百崎 孝男*

A report of *Myocastor coypus* from Fukui Prefecture in the north part.

Takao MOMOSAKI*

(要旨) 福井県の嶺北としては初めてとなるヌートリアの侵入を確認したので報告を行う。

キーワード：ヌートリア, 特定外来生物

ヌートリア *Myocastor coypus* はネズミ目ヌートリア科 (Rodentia Mammalia) に属し、大きなドブネズミ *Rattus norvegicus* のような体つきをしている。生息環境は流れの緩やかな河川、湖、沼などで、土手に穴を掘って棲んでいる。水生植物を主食とするが、ドブガイ、ザリガニの捕食も見られる(岡山県, 2010)。自然分布は南アメリカの中部から南部であるが、日本への定着が問題となっている生物である。日本では軍服の毛皮用として1939年に150頭が輸入され、関東から西日本で養殖されていた。しかし、毛皮の需要の減少に伴い養殖されていたものが野外へ放逐、脱走した個体が野外に定着したと考えられている(村上, 2002)。

本種は国際自然保護連合の種の保存委員会が定めた世界の侵略的外来種ワースト100、日本生態学会が定めた日本の侵略的外来種ワースト100、環境省が定める特定外来種に指定されている。つまり、世界の中でも駆除対象となっている生物なのである。イギリスでは1920年代に侵入したが、1962年から駆除を開始。1989年に根絶することに成功している(村上, 2002)。しかしながら日本では有害鳥獣駆除対策しか行われておらず、意図的導入が原因と思われる分布拡大が生じつつある。早急に封じ込め、根絶を行うべきである。

福井県では1976年9月15日に高浜町中津梅で侵入が確認された(福井県自然環境保全研究会鳥獣部会編, 1998)。その後、嶺南(高浜町, 小浜市)で確認されているが、嶺北では確実な事例報告が無い。嶺北の地元住人によればイタチともハクビシンとも違う生物、ヌートリアらしきものを見かけたと言う噂は耳にするが、証拠を手に入れる事が出来なかった。今回は道路で轢かれ、平らになった死体(図1)を見かけたので報告を行う。

報告にあたり、嶺北でのヌートリアの情報を頂いた鯖江市西山動物園の金田 俊晃氏、ヌートリアの写真

を同定して頂いた広谷 浩子氏に厚くお礼を申し上げます。

撮影データ

2009年6月10日に福井県福井市佐野町の県道3号線にて車にひかれ、平たくなったヌートリアの死体を見かけた(図1, 2)。その際には嶺北において貴重なサンプルだとは知らず、写真しか撮っていない。写真の同定は神奈川県立生命の星・地球博物館の学芸員、広谷浩子氏にお願いした。爪の形(細くて、長く、かぎのようには曲がっていない)や尾の形や長さ(真っ直ぐで毛があまりなく、長さ40cm程度)と、少し残っている毛の色や質感からヌートリアと判断された。

参考文献

- 福井県自然環境保全調査研究会 鳥獣部会編, 1998, 福井県の鳥とけものたち。福井県県民生活部自然保護課, 222p.
村上興正, 2002, ヌートリア。日本生態学会(編), 外来種ハンドブック, 地人書館, p69.
岡山県, 2010, ヌートリア被害対策マニュアル。岡山県, 76p.

*〒613-0065 京都府京都市南区唐橋西寺町7 アルカディア雄102

*7 karahashishaigi-cho, Minami ward, Kyoto, Kyoto, 613-0065 Japan



図 1. ヌートリア2009年 6月10日

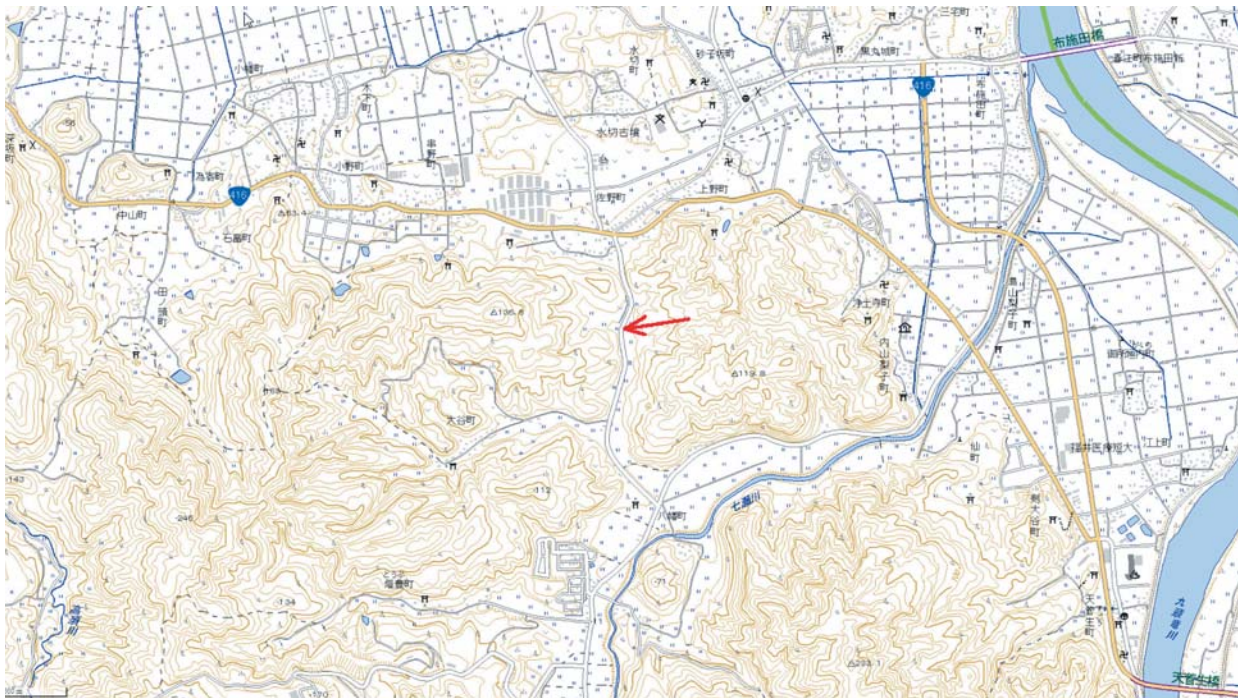


図 2. 撮影場所：福井県福井市佐野町の県道 3 号線